
無双伝 孫呉天下統一伝

マサムネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無双伝 孫呉天下統一伝

【Nコード】

N7736X

【作者名】

マサムネ

【あらすじ】

この物語は三国時代を築いた国の一つ呉に正史とは違い一人の男が呉を天下まで導く物語

序章

後漢末期、漢王朝の腐敗は政治が乱れ災害異変が発生し民の心はどん底まで落ちた。そんな太平道の張角が蒼天既に死す黄天まさに立つべしを旗印に大陸全土を巻き込んで起こした乱「黄巾の乱」から始まった世の乱れは数多の英雄たちが生まれた。その中で覇道を掲げる曹操の曹魏・漢王朝復興を目指す劉備の蜀漢・孫家三代により築き上げられた孫権の孫呉の三つの国が天下統一を賭けて命を賭けて争った。のちにこの時代を「三国時代」と人は読んだ。この物語は正史とは違い呉に仕えた男が呉を天下まで導く物語である。

序章（後書き）

お久しぶりです。マサムネです。まずは報告を勝手ながら戦極姫の小説を消去しました。理由としては自分で納得出来る物が出来ないための決断でした。申し訳ありません。そして、今回書く小説をメインとして書くことと戦極姫の主人公設定を少し使いたいと思います。これから少しずつですが、頑張っていきたいと思うのでよろしくお願いします。

主人公設定

姓・龍（リュウ） 名・星（セイ） 字・皇天（コウテン）

身長・180cm

歳・21

容態戦国BASARAの前田慶次

好きな物・こと

修行・料理・舞を踊ること・料理・読書・酒・呉の仲間

性格

いつでも明るく皆が頼れる兄貴分の存在。また容態も美形で尚且つ自分で思ったことを純粋に思ったことを発するので軽く女性を落としてしまう。

生い立ち

彼はもともと転生者前世の記憶を失っておりなぜか青年から少年の姿で荒野に寝ている所をとある老人に保護されたこの老人は仙人で今の名前と武術・知略・気の使い方・医療を学び授かった。そして修行がある程度完了したので龍星は「大陸を見て回りたい」と言つて仙人が彼のために武器・馬を与え彼はそれに感謝しこの大陸を旅をしながら修行を続けている。

夢吉（ユメキチ）

龍星に修行中にケガをしている所を助けそれ以来彼に懐いてる小猿小猿にしては理工で人の言葉も理解し力もザコ兵ぐらいは簡単に潰せる。

白竜（ハクリュウ）

仙人が龍星に与えた馬で容態は無双6の赤兎を体全体を白で鬣（タガミ）と尻尾は白銀で常に白銀の粒子みたいに光を放っている。速さは赤兎と同じかそれ以上とされている。主人の龍星に忠実で他人には絶対従わない。知性も人の言葉も理解できる。

武器

刀・赤竜刀（セクリュウトウ）・青龍刀（セイリュウトウ）

B B 戦士三国志の劉備ガンダムが使う爪龍刀・牙龍刀と同じで二刀を腰に挿している

主人公設定（後書き）

はい、主人公設定です。容態は戦極姫の小説から設定をもらいました。

次回は本編が始まります。

黄巾大反乱 序章（前書き）

張角が起こした「黄巾の乱」は大陸全土に及び民達は苦しんでいた。

そして、江東の地にも黄巾の魔の手が及んでいた。

そこに一人の旅人が江東を目指していた。後にこの旅人の名は天下に残すとは誰も知らなかった。ただ、旅人は愛馬の上で暢気に寝ながら進んでいた。

黄巾大反乱 序章

龍星 side

オッス！俺は龍星つてんだ。今は修行をしながら大陸全土を旅して
る所だ。ちなみに俺はこの大陸、イヤこの時代の人間ではない。二
次元小説にある。転生者それにあたる存在だと思う。なぜ思うかと
言うところまで来る時の記憶がなく、名前すら忘れている。ただ覚
えているのは日本人の青年でここが後漢でのちに三国志の話の舞台
になる古代中国で三国志の知識を持っていることだけだ、そしてな
ぜか俺はガキの姿で荒野にいた。そこを育ての親にあたるじっちゃんに拾われた。あとで知ったのだが、じっちゃんは仙人であると知
った。そこでじっちゃんから新しい名前とこの時代を生きるための
力と知識と気の使い方を修得するため修行を付けてくれた。そして
修行がある程度完了したので俺はじっちゃんに「大陸を見て回りたい」といったらじっちゃんは俺に武器・旅の金・愛馬の白竜をくれた。そして一言「これから進む道を見つけたら才堕ちずに進み続けろ」と言って笑顔で見送ってくれた。そあとは転々しながら大陸を旅しながら修行をして、今は江東を目指し白竜の上で寝そべっていた。

龍星「いやゝいい青空だねゝ」

???「キキィゝ」と俺の胸板の上に一匹の小猿がいた。こいつは夢吉、ガキのころに助けてそれ以来懐いている。俺は夢吉にふと一言いった。

龍星「夢吉よこれまで色々旅したが今の世の中はまさに地獄だよな。」と真剣な表情でそう言った。

今の大陸を収める漢王朝は腐敗により政は乱れ・民に対しての重い税・天変地異・そして大規模な反乱すら起きてしまう。これを地獄と言わないでどうする。そして俺は大陸を旅したが自分が進む道今だ探しているもんだ。

龍星「やつぱ難しいよなあ」と少しため息をついた。

夢吉はそれを見て俺を心配そうに見てきた。俺は夢吉に「ありがとう」と言い頭を撫でてやった。その後は穏やかな時が流れたがそれは長く続かなかった。

白竜が止まり。俺も気の乱れを感じ起き上がった。起きた先に黒い煙が見えた。俺は気の力を使い視力を強化して見て見たら賊が村を襲ってるのが見えた。

龍星「コイツは見過ごせないな」と言い白竜から降りた。

龍星「白竜すまないが近くに森があるからそこで待っていてくれ」
白竜は頷いて森に行った。

情報が少ない上で派手に乗り込むのは控えたほうが良いと判断した。

龍星「夢吉、俺の懐に入ってな」

夢吉「キキイ」と懐に入っつた。

龍星「さてといっちょ飛ばしますか！」俺は足に気を集中した。バシユ！と風を切る音がしたあともうそこには誰もいなかった。

黄巾大反乱 序章（後書き）

序章を何話に分けていきます。本格的な戦の話はもう少し先になります。

では、まで！次回！

黄巾大反乱 序章2（前書き）

前回の続きです。今回戦闘シーンを入れて見ました
では、開幕

黄巾大反乱 序章2

??? side

???「ハアハアハア！」

賊1「オラオラー！早く逃げねーと捕まえるぞ！」

賊2「ヒヤッヒヤッ逃げな逃げな！」

くっ！私はこんな所で捕まるわけには！
???「キャッ！」と足を引つ掛けてしまった。心成しか少し足が痛い。恐らく挫いたのかもしれない。

賊1「さあー捕まえたぜ！」

賊2「へっへっへっ！」

まさに万事休すね。まさかこんな所まで黄巾賊が出るなんて

賊1「しっかし急いでいたから分かんかったがこの女スッゲー上玉だぜ」

賊2「まったくだ。ヨダレが出そうだぜ」

二人の賊は私を舐める様に見てきた。私はただ睨むしかなかった。すると賊の後ろから声がしてきた。

賊3「おう！オメエラここにいたんか」

賊1「あつ！アニキ、今追い詰めましたぜ」と賊の一人がアニキと
言い新たな賊が現れた。

賊1「へへっアニキ！コイツは上玉ですぜ、一発ヤリますか？」

賊2「そうですよ！アニキ！」

賊3「馬鹿やろう。俺達の目的を忘れんな俺達はこの村の全員を始
末することだ。あとはコイツで最後だ。」

私はその言葉に自分の耳を疑った。む、村の皆が全員殺された。こ
んな流れ者の私を暖かく迎えてくれた村の皆がもうこの世にいない。
私は頭の中が真っ白になった。

賊3「安心しな姉ちゃん。すぐに村のヤツらの所に行けるからよ」
と賊の声で我に振り返ると剣を抜いていた。どうやらここまでね。
私は静かに目を閉じた。

・

・

・

あれ？一向に斬られた痛みが来ないのだけど？

賊1「な、なんだデメーは！？」

賊2「！？」

賊3「な、なにしやがる！は、離しやがれ！？」

賊達が慌てる声がある。私は目を開けてみた。

龍星「・・・」そこには賊達を軽く越す長身の男が私を斬ろうとしていた賊を後ろから手首を掴んでいた。賊は振りほどこうとしているが振りほどけないみたいだ。

龍星「フンッ！」男は手首を掴んだ手だけで賊を後ろにぶん投げた。そして後ろにあった民家に激突した。突然のことで私も族達も驚いていた。男は賊達を無視して私は警戒をしたが男はしゃがんで私に

龍星「大丈夫か？」と笑顔でそう聞いてきた。私は男の太陽な笑顔に見とれてしまった。

これが龍皇天との出会いであった。

龍星 side

龍星「ひでえなあ」俺が来たときにはもう村は火の海と化していたそして周りには死体があちこちあった。女子供、体の中身が出ていたり。体の一部が無い死体もあった。俺は静かに手を合わせた。すると

離れた所から声がした。俺は急いで向ったすると黄巾賊が女性を斬ろうとしていた。

俺は一気に加速して賊の手首を掴んだ。

賊1「な、なんだテーマは!？」

賊2「!？」

賊3「な、なにしゃがる!は、離しやがれ!？」と賊が振り解こうとしているが無駄だ。俺はそのままの状態だ後ろにぶん投げた。そのまま賊は後ろの民家の壁を突き破って動かなくなった。

それを見ていた残り物の賊と女性は驚いてる目だった。俺は賊はそ

のままに女性に近づいた。さすがに女性は俺が来ると警戒をしてみた。だが、俺はこの状況を打破する方法がある。それは・・・

龍星「大丈夫か？」と笑顔を作りながら優しい言葉をかける。こうすれば皆、警戒を解いてくれる。

でも、女性だと顔を赤らめてしまいボーとするのはなぜだ？

そして今回の女性も俺の顔を見て顔赤らめてボーとなっていた。

賊2「な、何してんじやー！ー！」と賊の一人が後ろから槍を俺の頭目掛けて突いてきた。しかし、

その動きは気の力で全てわかる。俺は最小限の首の動きで槍の突きを避け槍は空振りをしてしまった。

そこをすかさず俺が左手で握り槍を通して気を送った。

賊2「グッグググッ」と賊は手を離そうとしているが離れないそれも其の筈俺が気で手を一時的に金縛り状態にしているからだ。俺は槍を引っ張りそれに釣られ賊も一緒に来た。俺は右手で裏拳をかましたそれと同時に気を流すのを止めた途端手が離れて裏拳の威力で後ろにぶっ飛んだ。

賊1「や、野郎！」と最後の賊が剣を抜こうとしていた。すかさず高速移動で賊の前に行き柄頭を手で抑えもう片方の手を前に翳した。

龍星「ハッ！」と一気に開放して衝撃波をだした。賊は人形のように何も出来ないまま木箱の山に突っ込んだ。

賊を片付けた。俺は女性の下に戻った。相変わらず女性はボーとしていた。だから俺は女性の顔に近づいて「もしもーし」と声をかけた。すると「ハッ！」と気がついたみたいだ。

だが、顔が近かいのに気がつき

???「キャッ！」と可愛い声を出して驚いていた。いやーやっぱ改めて見ると美人だよなあ髪の毛の色はキレイに輝いて見える黒で、髪が長いのか後ろで一纏めにしてある。肌も雪の様に真っ白だ。

しかし、この女性何処かで見たんだが一向に思い出せない。でも今は声をかけないと

龍星「ハッハッハッ！悪い悪い何かボー！として反応が無かったからついな大丈夫か？」

???「は、はい大丈夫です。あのーここに入た黄巾賊は？」

龍星「黄巾？ああ、それならそこにいるぜ」と後ろをさした。そこには俺に倒された黄巾達がいた。それを見た女性は驚いていた。

???「あ、あなた一人で倒したの？」

龍星「まあな」と簡単に答えた。

???「そうですか、助けていただき有難うございます。」

龍星「いいことよ！それに美人が襲われてるのを黙って見てられるかよ」と笑顔で答えた。

???「び、美人なんてそんな」と女性はまた顔を赤らめた。

龍星「おいおい、だいじょ」と声をかけ様としたがやめて辺りを見回した。

「???」「ど、どうしたんですか?」とまだ頬を赤らめながら聞いてきた。

龍星「また、黄巾が来るそれかなりの数だ。」と先からここに向ってくる歪んだ多くの気を感じていた。

「???」「わ、分かるんですか!」女性は驚いていた。

龍星「まあ俺の特技みたいなもんだ。それよりここから離れよう立てるか?」

「???」「は、はい今たち、クツ!? 苦痛の声を出しながら足を押さえた。

龍星「どうした! ケガしているのか?」

「???」「先の黄巾に追われてる時に」と苦笑いしながら言った。そうか、ならばしかたない緊急事態だ。実力行使にでるか

龍星「ちよつと悪いな」

「???」「えっ? キャツ! ?」と女性を世に言うお姫さ抱っこで抱きかかえた。

「???」「あ、あ、あのー」と顔を真っ赤にしながら聞いてきた。

龍星「すまない、時間が無いんだ。それから腕を俺の首に回して、そして舌を噛まない様にね」と説明して女性は腕を俺の首に回した。

龍星「さあーて飛ばしますか!」俺は女性に負担をかけない様高

速移動でその場から離れた。

黄巾大反乱 序章2（後書き）

はい！初戦闘シーンが出ましたね短いけど〔汗〕序章は次で最後です。

次回龍星が助けた女性の正体が明らかに！
では、まで！次回！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7736x/>

無双伝 孫呉天下統一伝

2011年10月31日02時20分発行